

小国川にダムに依らない治水を！ ならぬことは、ならぬものです。

9月議会での追求にもかかわらず、10月26日にダム着工を祝う会がおこなわれ、県は小国川ダム建設の周辺工事(5.7億円)に着手。現地でも有志で抗議行動をおこないました。6月に住民訴訟も提訴されています。県内最大の自然破壊問題となっています。最上小国川は東北一の友鮎釣りのメッカであり年3万人も釣り人が訪れ、その流域への経済効果は年間22億円と推定された、全国でも貴重な川です。

ほぼ赤倉温泉の旅館数軒の治水のために計画されているダムは68億円。

酒田ご出身の評論家、佐高信さん、元報道ステーション解説者 朝日新聞論説委員の高成田 享さんにご協力いただき、緊急集会を12月5日に行いました。高成田さんは、集会の後、WEBマガジンJBpressで、「ダムの建設を中止して、赤倉温泉の再活性化プラン作りに切り替えれば、大きな話題になるとともに、全国から渓流を楽しんだり、「脱ダム」の視察に来たりする人々でにぎわうだろう。自然と共生する思想は、もはや時代が共有する考え方で、民主党も自民党も第三極もないはずだ。」と書いて下さいました。



パタゴニア社のカタログでエッセイ、釣り人、FLYFISHER で取り上げられました。山形随一の清流を。次世代に残しませんか？賛同者を求めています。ホームページ www.ogunigawa.org に動画・資料を掲載しています



小国川漁協組合長を囲んでの学習会

11月21日 ダム問題の渦中にある小国川漁協 沼沢勝善組合長を事務所にお迎えし、問題の真相を直接お話いただきました。「当初の治水対策の協議からダムありきだった」「鮎を通じて全国から来る釣り人と交流する事に幸せを感じている漁協組合員(1100名)のほとんどが反対を貫いている」「専門家にも温泉の影響なく河床の土砂除去ができると聞いている。ダムに依らず河川改修と温泉街の再生こそ良策だ」「孫子の代に、清流の恵みを手渡したい。」信念を貫きお話しされる沼沢組合長の言葉に実に納得。共感。なんとかしたいという思いが広がりました。



草島進一後援会 草進会 設立

鶴岡市議の頃よりこれまで、多くのボランティアの皆さんに支えられて活動をして参りましたが、その有志を基盤として、正式に草島進一後援会「草進会」を設立しました。24年5月20日に、勤労者会館に於いて



TPPIは食の安全を脅かします。安田氏

設立総会を開催いたしました。約50名の方々に参加して下さい、今後の活動方針などに貴重なご意見を活発に交換し、盛会に終える事ができました。

当日は、政策学習会として、食政策センター「ビジョン21」主宰の安田節子氏より「食べ物の安全と放射能・TPP」と題した講演も行い、多くの質疑応答もあり、大変有意義な時間となりました。今後もさまざまな活動を行って参ります。草島とともに未来の鶴岡・山形を語る集いも今後開催していきます。この機会にぜひ入会して、鶴岡を盛り上げていきましょう。ご入会をお待ちしております。

募集

3.11を踏まえ、川や海と、どうつきあっていくべきか。

参加無料
**3.11から学ぶ
庄内・鶴岡の未来。**
～真に生命と財産を守る防災とは～

日時 **1/27** 午後1時半 場所 **マリカ3F研修室**

川とは？
—日本の川の現状とこれからの治水のあり方—
大熊 孝 (おおくま たかし)
新潟大 名誉教授

庄内の津波対策
澤 祥 (さわひろし)
鶴岡工業高等専門学校 教授



基調講演の後、星野尚文山伏らを受けてディスカッションします。
大熊 孝先生は、日本を代表する河川工学の第一人。山形県職員にも教え子多数。
澤先生には、庄内近隣の活断層や津波予測の最新情報をお話頂きます。

山形県議会議員

パドル vol.4

草島進一 議会報告

ホームページ <http://www.kusajima.org> メール s.kusajima@gmail.com

草島進一事務所

〒997-0837
山形県鶴岡市道田町21-29
TEL 0235-28-3338
FAX 0235-26-0038

2013年(平成25年)1月15日発行
山形県議会議員 草島進一
議会報告 第4号

持続可能な社会 鶴岡・庄内・山形をつくろう。



9.27 予算委員会質問

2013年 謹賀新年。

皆様にとっていい一年である事を心から祈念いたします。2011年の東日本大震災から1年10ヶ月が過ぎましたが未だ原発事故は収束できず、約15万人の福島県民は故郷にもどれない状況にあります。また、津波被害の避難者の多くが仮設住宅で不自由な暮らしを強いられています。

国の政治は年末の選挙で自公政権へと政権交代がおこなわれました。脱原発勢力の結集は残念な結果となりました。

今年度、私は、商工労働観光常任委員会、人口減少問題対策特別委員会に所属して活動をして参りました。

私は一貫して、3.11を教訓とし、吉村知事の卒原発宣言を支持し、持続不可能な社会から、持続可能(サステナブル)な社会への転換を訴えてきました。更に、「原子カムラ」と全く同様の構造のダム問題に取り組み、生物多様性を活かし、自然と共生した社会・経済への転換を主張し続けてきました。

平成24年度、再生可能エネルギー元年を大きなチャンスととらえ、いかに新たな産業構造をつくり、雇用創出できるか。また、足下の自然資本を活かして観光や農林水産業、食文化、手業の文化をいかに磨き、新たな経済を立ち上げることができるか。様々な学会や学習会で先生方にお会いし、現場を訪れ、県政への提言を続けて参りました。

2013年、持続可能な鶴岡・庄内・山形へ。一歩前へ進む政治に進みたいと思います。どうぞご支援の程、また、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いたします。

鶴岡の雇用問題 ルネサス山形鶴岡工場の雇用問題は緊急課題！

ルネサス山形セミコンダクタ鶴岡工場約1300人の雇用問題。

8月、9月、11月、12月議会の商工労働観光常任委員会、庄内総合支庁での地域協議会で状況を尋ね、国や地域への働きかけ、希望退職者300人の受け皿の地域での確保について、県の積極的な対応を求め続けました。今現在ルネサス側が契約する再就職支援会社2社で70名と鶴岡ハローワークで20名の確保したとのこと。12月議会では、今、商工会議所などを通じ、鶴岡市内あらゆる職種で雇用の受け皿をお願いしている中で、県と市でこれまで120億円もの税投入している慶応先端研や関連ベンチャーに対しても受け皿となるよう、積極的な働きかけを県に求めました。

雇用・経済問題は全県的に大きな課題です。吉村県政下、国の緊急雇用対策などによる雇用創出1万人プランなどを実施したものの、臨時的な雇用創出だったことを受け、24年度から3年間「やまがた新雇用安定プロジェクト」として産業振興と一体的な安定雇用をつくる取り組みがはじまっています。

●12月議会では議員提案の中小企業振興条例が可決。県は山形県中小・小規模企業支援戦略を策定中です。
●委員会で、私は、再生可能エネルギーの産業創出の為に県工業技術センターと高専等、産官学、金融、市民とが協働して事業を産み出す、オープンなコンソーシアムの立ち上げなどを提言。又、鶴岡特有の伝統工芸である「しな織り」「鶴岡シルク」「鶴岡綴り」など高付加価値の手工業品への支援、更に食や農資源を活用した6次産業、観光政策について諸々提言をしました。地域ならではの資源を磨いていかに経済を生み出すか、そして地域循環の経済が肝と考えています。

関係者の皆さんからの情報お待ちしております

